

### 第 3 章 前計画の進捗状況と課題

#### 1 前計画の概要

愛知県廃棄物処理計画（平成 24 年度～28 年度）（前計画）では、3R の取組を一層進めることとし、重点とする減量化目標を以下のとおり定めた。

また、主な施策として、3R の促進のほか、ものづくりの県である本県の産業技術の集積を活かした循環ビジネスの促進や、適正処理と監視指導の徹底など 6 つの施策を総合的かつ計画的に進めることとした。

廃棄物の排出量について、平成 20 年度に対して一般廃棄物は約 9%、産業廃棄物は約 6% 削減する。

処理しなければならないごみの一人一日当たりの量は、前計画の目標を継続し、720g とする。

排出量に対する再生利用量の割合は、一般廃棄物について約 26%、産業廃棄物について約 68% とする。

最終処分量について、平成 20 年度に対して一般廃棄物は約 23%、産業廃棄物は約 18% 削減する。

#### 2 廃棄物の減量化目標の達成状況

##### (1) 減量化の状況

##### ア 一般廃棄物

一般廃棄物について、経年的にみれば排出量、再生利用量、最終処分量とも減少傾向にある（図 40）。再生利用量については、量ではなく排出量に対する割合が重要であるため、再生利用率については（2）で整理した。

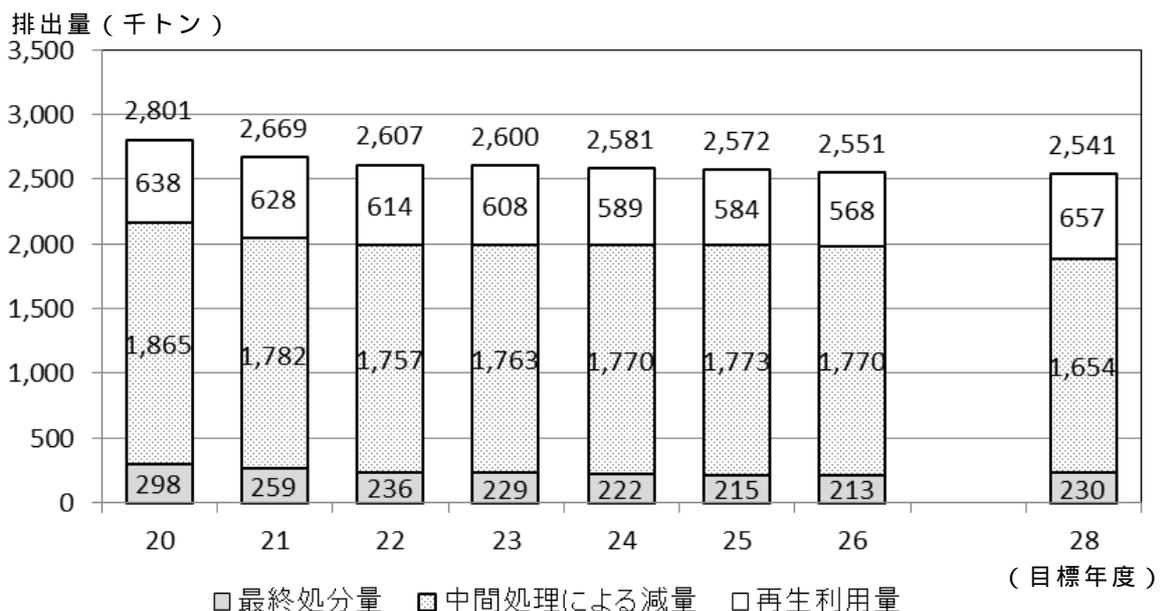


図 40 一般廃棄物の減量化の状況

## イ 産業廃棄物

排出量について、平成 21 年度に大きく減少したものの、平成 21 年以降は増加傾向であり、平成 26 年度は 1,524 万 9 千トンで平成 28 年度目標値 1,545 万 3 千トンより低い値を示した(図 41)。平成 21 年度に排出量が大きく減少した主な原因は、その前年に発生した世界的な経済状況の悪化による生産活動の縮小が考えられる。経年的にみれば、排出量は増加傾向であるが、再生利用量も増加しているため、最終処分量は大きく変動していない。このことより、3R等の取組が大きく進んでいることがうかがわれる。

再生利用量については、一般廃棄物と同様、排出量に対する割合で評価することとし、その状況については(2)で整理した。

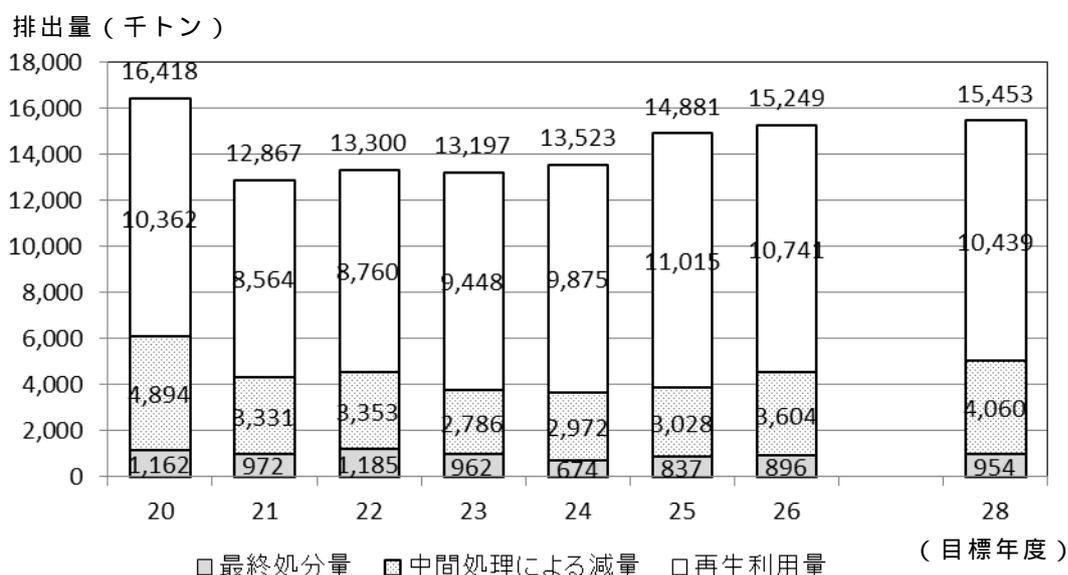


図 41 産業廃棄物の減量化の状況

### (2) 減量化目標の達成状況

前計画で掲げた重点とする減量化目標の達成状況は次のとおりである。

なお、達成状況の評価に当たっては、排出量等の最新実績である平成 26 年度実績により評価を行った。

目標：廃棄物の排出量について、平成 20 年度に対して一般廃棄物は約 9%、産業廃棄物は約 6%削減する。

項 目		基準年度(平成 20 年度)の実績値	現状(平成 26 年度)の実績値	平成 28 年度 目標値
排出量	一般 廃棄物	280 万 1 千トン	255 万 1 千トン (8.9%減)	254 万 1 千トン (約 9%減)
	産業 廃棄物	1,641 万 8 千トン	1,524 万 9 千トン (7.1%減)	1,545 万 3 千トン (約 6%減)

【目標の達成状況】

一般廃棄物の平成 26 年度における排出量は 255 万 1 千トンであり、平成 20 年度の 280 万 1 千トンに比べ 8.9%減少しており、経年的な傾向も減少傾向にあり、目標達成が見込まれる(図 41)。

産業廃棄物の平成 26 年度における排出量は 1,524 万 9 千トンであり、平成 20 年度の 1,641 万 8 千トンに比べ 7.1%減少しており現状で目標値を達成しているが、排出量について、近年では増加傾向にある(図 42)。

目標：処理しなければならないごみの一人一日当たりの量は、720gとする。

項目	基準年度(平成20年度)の実績値	現状(平成26年度)の実績値	平成28年度目標値
処理しなければならないごみの一人一日当たりの量	822g	760g (7.5%減)	720g (12.4%減)

注：処理しなければならないごみの一人一日当たりの量：一般廃棄物の一年間の総排出量から資源ごみ量及び集団回収量を差し引いて、一人一日当たりに換算したものの。

【目標の達成状況】

平成26年度における処理しなければならないごみの一人一日当たりの量は760gで、平成20年度に比べ7.5%減少しているものの、近年は横ばい傾向であり、平成28年度の目標達成は困難と見込まれる。

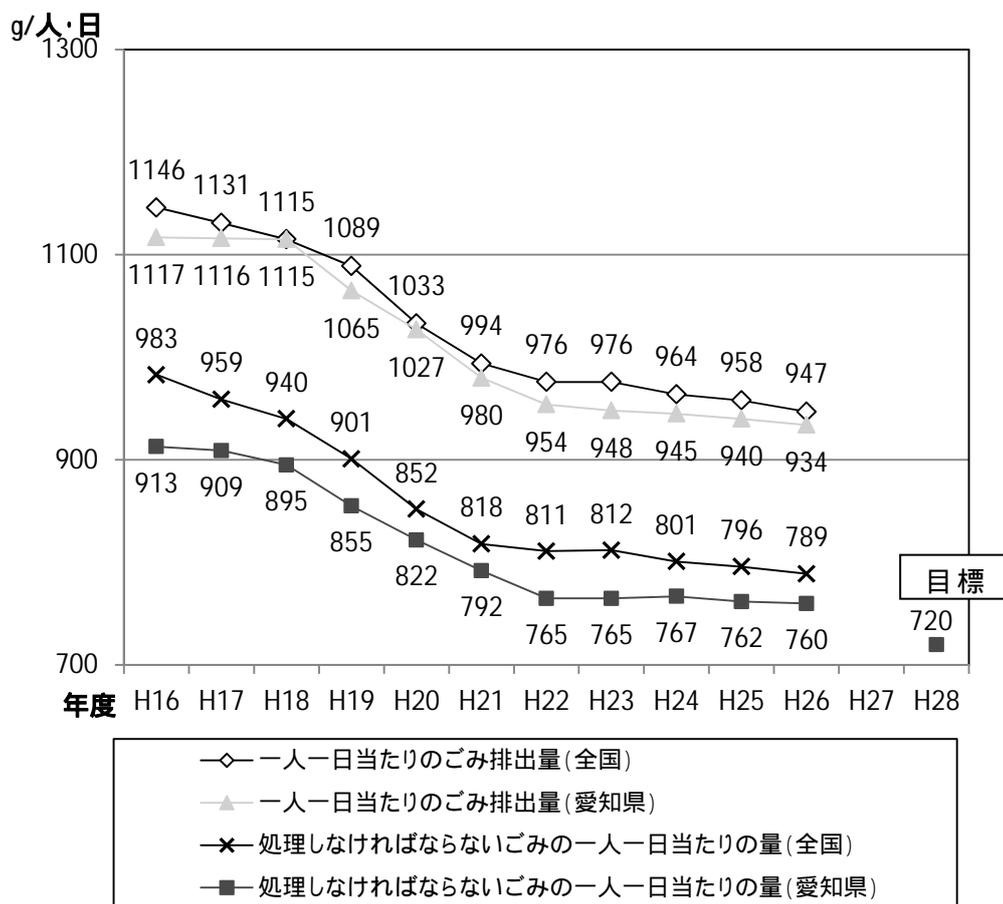


図 42 一人一日当たりのごみ排出量等の経年変化(全国との比較)

目標：排出量に対する再生利用量の割合（再生利用率）は、一般廃棄物について約 26%、産業廃棄物について約 68%とする。

項目		基準年度（平成 20 年度）の実績値	現状（平成 26 年度）の実績値	平成 28 年度目標値
排出量に対する再生利用量の割合	一般廃棄物	22.8% $\left( \frac{63 \text{ 万 } 8 \text{ 千ト}}{280 \text{ 万 } 1 \text{ 千ト}} \right)$	22.3% $\left( \frac{56 \text{ 万 } 8 \text{ 千ト}}{255 \text{ 万 } 1 \text{ 千ト}} \right)$	約 26%
	産業廃棄物	63.1% $\left( \frac{1,036 \text{ 万 } 2 \text{ 千ト}}{1,641 \text{ 万 } 8 \text{ 千ト}} \right)$	70.4% $\left( \frac{1,074 \text{ 万 } 1 \text{ 千ト}}{1,524 \text{ 万 } 9 \text{ 千ト}} \right)$	約 68%

【目標の達成状況】

一般廃棄物の平成 26 年度における排出量に対する再生利用量の割合(再生利用率)は 22.3%と平成 20 年度に対して 0.5 ポイント減少した。近年では再生利用率は下降傾向にあり、目標達成は困難と見込まれる。

近年、総排出量、資源化量ともに減少傾向にあるが、資源化量の減少割合が高い状況となっている。特に、資源化量の大半を占める新聞・雑誌などの紙類が減少傾向にある。これは、新聞や雑誌の発行部数の減少や、IT化による紙の消費が減っていることが挙げられる。また、紙類に限らずスーパー等で民間事業者によって回収されることにより、国が実施する一般廃棄物処理事業実態調査で把握されないことも原因の一つであると考えられる。

今後は、民間事業者によって回収されている資源化物の量を把握することも必要であると考えられる。

産業廃棄物の平成 26 年度における排出量に対する再生利用量の割合は 70.4%であり、平成 20 年度に対して 7.3 ポイント増加した。平成 26 年度はその前年度よりもやや下降したが、近年では 70%を超える高い水準で推移しており、目標達成が見込まれる（資料 1-2、p22 図 31）。

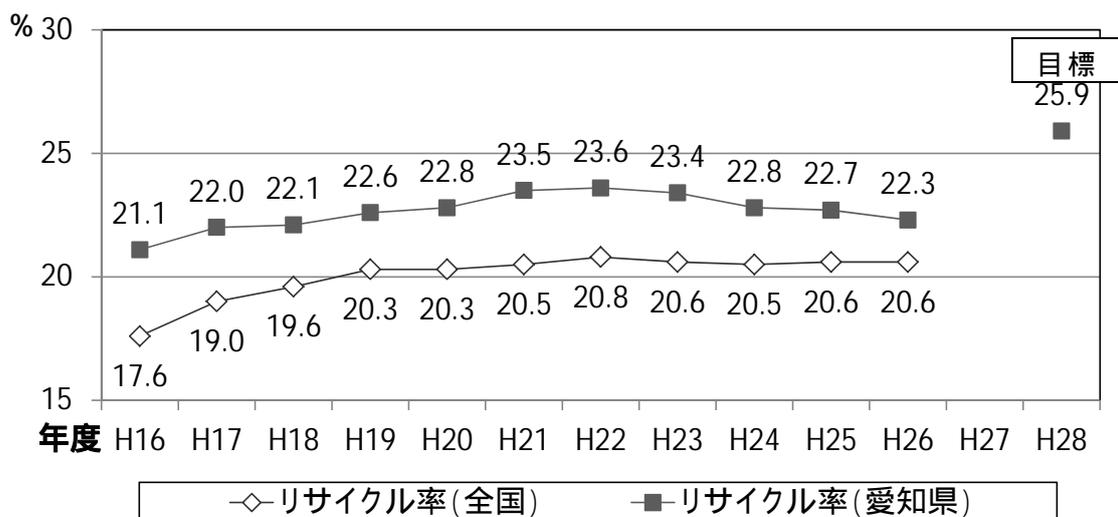


図 43 一般廃棄物のリサイクル率の経年変化（全国との比較）

目標：最終処分量について、平成 20 年度に対して一般廃棄物は約 23%、産業廃棄物は約 18%削減する。

項 目		基準年度(平成 20 年度)の実績値	現状(平成 26 年度)の実績値	平成 28 年度 目標値
最終処分量	一般廃棄物	29 万 8 千ト	21 万 3 千ト (28.5%減)	23 万ト (約 23%減)
	産業廃棄物	116 万 2 千ト	89 万 6 千ト (22.9%減)	95 万 4 千ト (約 18%減)

【目標の達成状況】

平成 26 年度における一般廃棄物の最終処分量は、21 万 3 千トンであり、平成 20 年度に比べ 28.5%減少しており、現状で目標値を達成している。一般廃棄物の最終処分量は経年的に減少傾向にあり目標の達成が見込まれる。

また、産業廃棄物の平成 26 年度最終処分量は 89 万 6 千トンであり、平成 20 年度に比べ 22.9%減少しており、現状で目標値を達成している。平成 24 年度以降の最終処分量は増加傾向であるが、増加量は少なく、目標の達成が見込まれる。